

統計を利用する立場から

茨城県農業協同組合中央会営農農政部

次長 菊池 勝次

農業をめぐる情勢は、先進国を中心とした経済不況のなかで政府の財政再建、貿易の自由化、農産物の過剰化、4年連続の冷災害など、かつてないほどの厳しいものとなっております。そのようななかで系統農協は組合員の営農と生活を発展させるため、営農指導を基本に信用、経済、共済、利用事業など幅広いものがあり、しかも組合員の階層分化がはげしく、農協に対する要求も多様化し、事業方式も高度化、複雑化が一段とすすんでおります。

現在、農協は農業振興方策と系統農協経営刷新方策の二つの課題にとりくんでおり、農業情勢の変化に対応した農協活動を目標にすすめています。このうち農業振興方策は、組合員の営農類型の定着化による農業所得の拡大をはかるため、土地、資本、労働を最大限に活用することを基本に各種の対策をすすめております。また経営刷新方策は厳しい経営環境に対応した経営の合理化と効率化をはかるため、役職員が意識を統一し経営の体質を改め各事業の強化を基本にすすめているものです。

統計を加工して活用

系統農協は、事業をすすめるにあたって従来、勘と経験による運営が行われてきたきらいがあり、最近のように事

業が複雑化しているなかでは、中・長期計画の樹立によって単年度ごとに計画～実行～反省～改善の繰り返しを数字を持って計数管理が必要になっております。

具体的な例として営農類型別農家の育成をすすめておりますが、農業所得目標設定の基礎資料として、農畜産物販売のマーケティング対策、購買事業における地域内需要量の分析、信用、共済事業における地域内分析などあらゆる事業において、全国、県、市町村の各段階の統計を処理加工して活用しており、統計無しには事業推進ができないといっても過言でない状況です。

情報化時代へ積極活用

系統農協でも近年コンピュータやニューメディアへの対応など情報化の急激な発展がなされております。

現在、農協の販購買事業等で組合員から、農協は商系より情報が遅いという声が出ており、それに対して全国、県、市町村の各段階の組織が情報の収集、処理加工、そして提供の迅速化が課題となっております。これに対応するには統計の活用と調査を基本に情勢を分析して精度の高い情報の提供が必要になっております。

昭和58年度 全国大会優勝者表彰 — 統計グラフで4人が受賞される —

去る2月24日(金)茨城県公館において、昭和58年度全国大会優勝者表彰式典が行われ、竹内副知事から受賞者14名の方に表彰状と記念品が贈られました。

この表彰は、県内に居住する個人又は県内の事業所等に勤務する個人及び県内の団体で、国又は全国団体及び国際団体の主催するスポーツ大会、コンクール、品評会、共進会、審査会等において優勝(国際大会においては2・3位入賞を含む。)したものに対して贈られるものです。

昭和57年7月から始められたこの表彰は年2回行われており、今回統計グラフコンクール関係で初めて次の方々が受賞されました。

昭和58年統計グラフ全国コンクール 第3部特選受賞
結城市立結城中学校 1年

加藤直美、塩谷奈緒子、猪俣修、橋本弘
四人の作品は、森林資源をテーマにしたもので、資

料の選択と加工、構図、色彩ともに優れた作品と評されています。

今回の受賞に対しまして、心からお祝い申し上げますとともに、今後のますますのご活躍を期待いたします。

(統計課・統計指導グループ)



竹内精一副知事・高倉前統計課長(中央右・左)を囲む受賞者